

5268790

長浜市八幡東町632

長浜市役所 市民広報課 行

市民からのメッセージ



市民の皆さんの声をお聞かせください 「市民からのメッセージ」

市民の皆さんの声を市政に反映し、暮らしやすいまちをつくるため、「市民からのメッセージ」を募集します。「広報ながはま」や市政に関する意見や提案をお聞かせください。

お寄せいただいたメッセージは、市民の皆さんと共有するため、今後、市ホームページで掲載する場合があります。

ご利用ください 長浜市の広聴制度

●飛び出す市長室「座ぶとん会議」

市長が地域へ出向き、市民の皆さんと直接意見交換をします。テーマは申込者が自由に設定できます。詳しくは下記までお問い合わせください。

●ご意見箱

市役所1階市民交流ロビーに、「ご意見箱」を設置しています。

●市ホームページ

トップページの「市へのご意見」から、手軽に意見や提案を送ることができます。



【問合せ】長浜市役所市民広報課 （ ☎65-6504 / FAX 65-4006 ）

のりしろ

のりしろ

《記入方法等について》

- ①複数の設問がありますが、いずれかの設問への記入だけでも受け付けます。
- ②郵便切手は不要です。FAXでの受付もできます。
- ③担当課からの返事をご希望の場合は、住所・氏名・連絡先をご記入ください。メールアドレスのみ、番地や氏名の記載がないなどの場合は匿名扱いとなり、お返事ができません。

市政の動き (10月16日～10月31日)

市役所内で行われた会議について、その内容を概略でお知らせします。詳しくはホームページまで。

会議名など	内 容
10月16日(水) 第3回長浜市支え合いの地域づくり推進委員会 担当課:高齢福祉介護課(☎65-7789)	委員会の役員を選出し、委員から生活支援活動について報告がありました。事務局から今年度の事業報告および来年度の事業展開について提案があり、その内容について審議しました。
10月17日(木) 第3回長浜市建築審査会 担当課:建築住宅課(☎65-6902)	建築基準法第43条第2項第2号の規定による許可の同意および承認を行いました。
10月24日(木) 長浜市指定管理者選定委員会第1委員会(第6回会議) 担当課:行政経営改革課(☎65-6702)	高月まちづくりセンターの指定管理者の募集にあたり、募集方法および募集要項等について審議しました。また、長浜伊香ツインアリーナの指定管理者候補について審査を行った結果、「(公財)長浜文化スポーツ振興事業団」を指定管理者候補として適当と判断しました。
10月25日(金) 第3回長浜市ICT利活用プラン策定懇話会 担当課:情報政策課(☎65-6581)	事務局から第3次長浜市ICT利活用プラン(素案)について説明を受け、意見交換を行いました。
10月30日(水) 第2回長浜市総合教育会議 担当課:総合政策課(☎65-6505)	児童虐待の現状と市の体制について説明を行った後、早期発見と予防策について、意見交換を行いました。また、来年度策定する(仮称)長浜市教育大綱について協議を行いました。
10月31日(木) 長浜市指定管理者選定委員会第2委員会(第6回会議) 担当課:行政経営改革課(☎65-6702)	指定管理者候補について審査を行った結果、高月駅コミュニティセンター関連施設は「(特非)花と観音の里」、妙理の里は「株式会社ロハス長浜」を指定管理者候補として適当と判断しました。



▲くまさんに変身。腕の力がつきます。

めざす子ども像

- 一、夢や目標をもち、それに向かって努力する子
- 一、思いやりのある心のやさしい子
- 一、ふるさとを愛し、誇りをもって生きる子

長浜子どものちかい

～わたしたちはちかいます～

- 一、元気にあいさつをします
- 一、名前を呼ばれたら「はい」と返事をします
- 一、「ありがとう」「ごめんなさい」をすなおに言います
- 一、困っている人がいたら言葉をかけます
- 一、人の話をしっかり聞きます

長浜子育て憲章

～おとなが実践します～

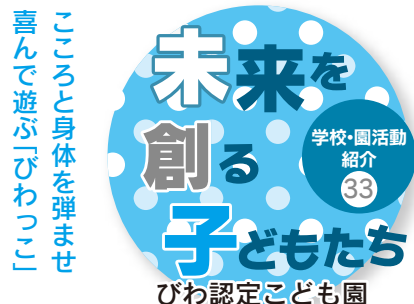
- 一、子どもに誠実に生きる姿を見せます
- 一、見守るまなざし、叱る勇気を大事にします
- 一、ルールとマナーを教え、奉仕の心を育みます
- 一、自然や人々に感謝の心でふれあう子どもを育てます
- 一、長浜に誇りをもち、地域に貢献する子どもを育てます



学校・教育関係の情報が満載
市教育委員会フェイスブック



▲跳び箱も跳べるよ。



びわ認定こども園

な曲は、体操・マラソンが始まる合図。子どもたちは元気に園庭に出て、リズムに合わせて楽しそうに身体を動かします。体操後のマラソンでは、園庭や築山を悠々と走る子どもたち。広い園庭で0歳～5歳児の子どもたちがふれあいながら、互いに育ち合っています。また、市として取り組んでいる「運動あそびプログラム」を活用し、体操・マラソン後には、「カエルさんみたいに跳んでみよう」「鉄棒にぶらーんとぶら下がれるかな」など、腕の力や足の力を使って遊ぶ機会をつくっています。年齢が上がるにつれ、鉄棒や跳び箱などを使って自分の力を試す姿が見られます。小さい年齢の子どもたちもお部屋や園庭のあちらこちらでハイハイしたりいっぱい歩いたりすることで、足腰の力が強くなり、頼もしくなってきています。これからも、「身体を動かすこと」が日々の生活や遊びの中に定着するよう、環境や言葉かけを工夫し、子どもたちに「おもしろそう」「やってみよう」という気持ちを育てていきたいと思っています。